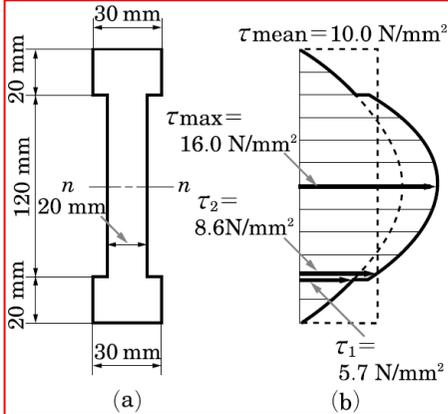
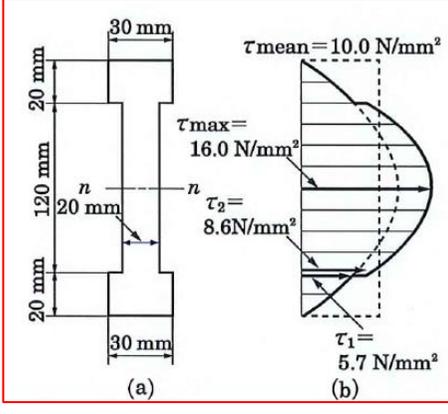


番号	訂正箇所		原文	訂正文
	ページ	行		
1	6	20	<p>(原文)</p> <p><u>を理解して駆使するためにも基本的な考え方を学ぶことがたいせつである。</u></p>	<p>(訂正文)</p> <p><u>を駆使する設計においても構造物に働く力の基本的な考え方は変わらない。</u></p>
2	24	図 1-45	<p>(原文)</p> <p>(a) (b) (c)</p>	<p>(訂正文)</p> <p>(a) (b) (c)</p>

番号	訂正箇所		原文	訂正文
	ページ	行		
3	134	3	$Z = Z_c = Z_t = \frac{I_{nx}}{y} = \frac{\pi d^4/64}{d/2} = \frac{\pi d^3}{32}$	$Z = Z_c = Z_t = \frac{I_{nx}}{y_c} = \frac{\pi d^4/64}{d/2} = \frac{\pi d^3}{32}$
4	135	8	<p>図 6-27 の T 形断面の上下縁の断面係数を求めよ。</p>	<p>図 6-27 に示す断面の上下縁の断面係数を求めよ。</p>
5	141	側注 2	<p>②せん断力が正の部分であるため、せん断応力 <math>\tau</math>, <math>\tau'</math> の方向を図 6-37(b) ようにとる。</p>	<p>②せん断力が正の部分であるため、せん断応力 <math>\tau</math>, <math>\tau'</math> の方向を図 6-37(b) のようにとる。 <span style="color: blue;">挿入</span></p>
6	145	図 6-42		

番号	訂正箇所		原文	訂正文
	ページ	行		
7	146	15	接合部の上部側のせん断応力は,	接合部の上部側のせん断応力は, 挿入

8	156	図 7-4	<p>(原文)</p> <p>P: 比例限度 (応力とひずみが比例する限界)  E: 弾性限度 (弾性の性質を有する限界)  Y<sub>U</sub>: 上降伏点 (急激にひずみが増加するはじまりの点)  Y<sub>L</sub>: 下降伏点 (急激にひずみが増加する終わりの点)  H: 降伏伸び終了点 (応力が変化せず、ひずみのみ増大する限度)  U: 最大応力点 (応力が最大となる点)  B: 破壊点 (材料が破壊する点)</p> <p>弾性域 塑性域 ひずみ硬化域  (点E, 点H, 点Uにおけるひずみの大きさは、それぞれ 0.1~0.2%程度, 1~2%程度, 15~20%程度となる。)</p> <p>(a) (b)</p>	<p>(訂正文)</p> <p>P: 比例限度 (応力とひずみが比例する限界)  E: 弾性限度 (弾性の性質を有する限界)  Y<sub>U</sub>: 上降伏点 (急激にひずみが増加するはじまりの点)  Y<sub>L</sub>: 下降伏点 (急激にひずみが増加する終わりの点)  H: 降伏伸び終了点 (応力が変化せず、ひずみのみ増大する限度)  U: 最大応力点 (応力が最大となる点)  B: 破壊点 (材料が破壊する点)</p> <p>弾性域 塑性域 ひずみ硬化域  (点E, 点H, 点Uにおけるひずみの大きさは、それぞれ 0.1~0.2%程度, 1~2%程度, 15~20%程度となる。)</p> <p>(a) (b)</p>
---	-----	-------	--	---

番号	訂正箇所		原文	訂正文
	ページ	行		
9	170	3	この $\frac{h}{3}$ , $\frac{b}{h}$	この $\frac{h}{3}$ , $\frac{b}{3}$
10	193	22	- 40 kN	- 40 kN (圧縮力) 挿入